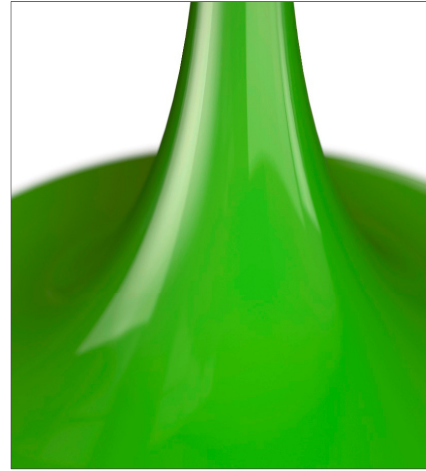




PANTHELLA MINI
Design: Verner Panton



ヴァーナー・パントンの名作「パンテラ」のミニ・ヴァージョン、豊かなカラーで発売

デンマークのルイスポールセン社は、テーブルランプのアイコンとも言える「パンテラ」のサイズ（Φ40cm）を25cmに縮小したミニ・ヴァージョンを発売します。シェードをメタル製とし、ヴァーナー・パントン自身のカラーパレットから選んだ鮮やかな8色（イエロー、オレンジ、ヴァイオレット、レッド、ピンク、ブルー、ブルーグリーン、イエローグリーン）に、オパール（アクリル製）、ブラック、ホワイトの3色を加えた全11色で展開します。最新のLED光源に3段階の調光機能を組み込んだ「パンテラ ミニ」は、2016年9月から世界中で発売となります。

「パンテラ ミニ」のカラフルな色彩は、ヴァーナー・パントン（1926-1998）が亡くなる直前に取り組んだ最後の展覧会に由来します。それは、デンマーク、コールディングにあるトラポルト現代アート美術館で1998年9月に開催された「Lyset og Farven（光と色）」展のために用意した8色です。彼はこの展覧会で8つの部屋を異なる色に塗り、そのなかで彼が50年のキャリアを通して生み出した家具、照明、ファブリックをインсталレーションし、光と色彩を総合的に表現しようと試みたのでした。

パントンの世界にとって色彩とイメージが不可欠な要素だった事実をふまえ、ルイスポールセンでは「Lyset og Farven」展のために彼自らが選んだ色を、「パンテラ ミニ」に採用しました。

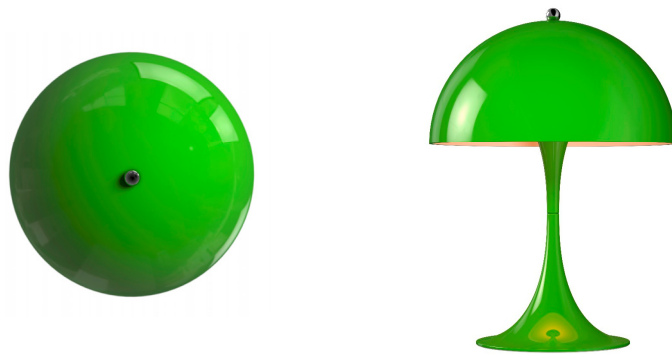
終わらないパントン・フィーバー

「ヴァーナー・パントンがルイスポールセン社とのコラボレーションで「パンテラ」（テーブルランプとフロアランプ）を制作したのは1971年です。もともと、パントンは金属製のシェードを考えていましたが、最終的にアクリル樹脂を使って製品化されました。つまり、今回リリースする「パンテラ ミニ」は、原案に忠実な初めてのモデルなのです」と、ルイスポールセンのデザインマネージャー、ラスムス・マークホルトは語ります。

1950年代から1960年代にかけて、デンマークの建築家やデザイナーの多くが木材などの天然素材を使っていたのに対し、ヴァーナー・パントンは新しい素材を好み、スチール、プラスチック、プレキシガラス（アクリルガラス）、ファイバーガラスなどを得意とするデザイナーへ成長しました。パントンは、新素材を使った作品で時代の先駆けとなっただけでなく、円や丸みを帯びたフォルムをデザインするパオニアでもありました。流れるようなフォルムのスタイルが「有機的デザイン」と称され主流になるず

っと前から、彼はこのようなフォルムに注目していたのです。これこそが、今日、パントンの作品（特に、トランペット型の支柱に半球を乗せたような「パンテラ」ランプ）がデザイン・アイコンとなった理由のひとつだと、ラスムス・マークホルトは説明します。

1990年代のレトロブーム以来、ヴァーナー・パントンのランプの人気は急速に高まりました。世界中のオークションハウスで彼の作品の需要は高く、ルイスポールセンでも、“パンテラを少し小さくして、窓枠や棚、テーブルなど限られたスペースに置くことのできるモデルを作ってほしい”というリクエストが多数寄せられていました。



パンテラ ミニ (Panthella Mini) design: ヴァーナー・パントン (Verner Panton)

色種: ホワイト、ブラック、イエロー、ヴァイオレット、オレンジ、ブルー、レッド、ブルーグリーン、ピンク、イエローグリーン、オパールアクリル (全11色)

サイズ: Φ250mm H335mm Max 1.2kg 材質: スティール、粉体塗装 (オパールアクリルタイプは樹脂)

光源: 組込式LED 10W (400 lm 以上). 100% - 66% - 33% - OFFの段階調光付.

発売予定日: 2016年9月

店頭価格: **49,000円** (税込 52,920円)

ヴァーナー・パントンが1971年に発表したアイコンックなパンテラを、オリジナルの直径 40cm から 25cm に縮小したミニモデル。シェードの素材は、パントンの当初のアイデアを再現した金属製。内側が白色に塗装されたメタルシェードは、光源の光を下方向に反射し、トランペット型の支柱で再反射し、部屋に光を拡散させます。

資料

ヴァーナー・パントんと、彼の光のデザインについて

世界的に活躍したデンマーク人デザイナー、ヴァーナー・パントン（1926-1998）は、親しい友人であったポール・ヘニングセンやアーネ・ヤコブセンからインスピレーションを受けました。（パントンはヘニングセンの義理の娘であったトーヴェ・ケンプと結婚して男の子をもうけており、アーネ・ヤコブセンとは、彼のデザインスタジオでアントチェアなどのプロジェクトに関わっています。）しかし、彼は比類のないアヴァンギャルドなデザイナーとして家具、照明、テキスタイルなどの作品に真剣に取り組んだアーティストでした。当時は、デザイナーは木材等の自然素材を使ったクラフトマンシップを追求するのが主流だった時代ですが、パントンの考えはまったく異なっていました。彼は革新的なプロダクトデザインを目指し、プラスチック樹脂やファイバーガラス、プレキシガラス（アクリルガラス）、スチール、気泡ゴムといった人工素材を採用しました。

1961年、パントンはデンマークを離れてスイスに移住しました。当時、彼のデザインは国外から大きな注目を浴びるようになりましたが、デンマーク国内ではそうではなかったのです。彼の作品で最も有名になったのは、世界で初めてプラスチックのみで作った「パントン・チェア」、「パンテラ」（テーブル＆フロアランプ）、「フラワーポット」（ペンダントランプ）、そして、インテリアと建築、アートが相互作用して新しい関係性をつくりだす、トータルな空間デザイン（ドイツの出版社シュピーゲルのインテリアなど）です。

照明デザインにおいては時代の先を行き、理想とする雰囲気をつくりだす光を目指しました。1955年から1998年の間に、パントンは25点に及ぶさまざまな照明器具をデザインし、その大多数をルイスポールセンが製造しました。光源の眩しさを遮る、いわゆる“グレア・フリー”のデザインには友人であったポール・ヘニングセンの影響が見られます。パントンの照明は大きく2つに分類することができます。ひとつは、たくさんの要素が混ざり合った有機的デザインで、もうひとつは、シンプルな幾何学フォルム（特に球体や半球）で構成されたものです。パントンのランプは高い人気を得て、特に「フラワーポット」（1968年）と「パンテラ」（1971年）は、発売後直ちにベストセラーになりました。

ルイスポールセン社について

確固としたライティング・フィロソフィーを持った照明メーカー

ルイスポールセンは、会社創業140年の歴史を持つデンマークの照明メーカーです。ポール・ヘニングセン、アーネ・ヤコブセン、ヴァーナー・パントン、ヴィルヘルム・ラウリッツェン、オイヴィン・スロット、nendo/佐藤オオキ、内山章一、アヌ・モザー、ルイズ・キャンベルといった、歴史的巨匠から才気あふれる現代作家まで、優れたデザイナー、アーキテクトたちとの緊密なパートナーシップを通して、「PHアーティチョーク」や「PH 5」をはじめとする PH シリーズ、「コラージュ」、「エニグマ」、「AJ」シリーズなどを発表してきました。クラシックなデザインから洗練されたモダンなデザインまで、また、家庭のあかりから建築施設の照明まで、幅広いライティング・ソリューションを手がけています。

実は、ルイスポールセン製品には、固有の建築プロジェクトに使うことを目的に開発されたものが多くあります。デザイナーによる美しいランプの多くが、特定の照明条件へのソリューションとして生まれています。

そのため、すべてのルイスポールセン製品にはそれぞれ誕生ストーリーが隠されています。このような製品はすべて、デザイナーやアーキテクトのヴィジョン、デザインコンセプトと、ルイスポールセン独自の“ライティング・フィロソフィー”が融合して生まれたものです。（このフィロソフィーについては後ほど紹介します。）

ルイスポールセンのおもな歴史

- ・ ルイスポールセンの歴史は1874に始まりました。1900年代初期、ルイス・ポールセンがその叔父が経営する事業を引き継ぎ、彼の名が社名となりました。
- ・ 1924年、パリの万国博覧会のデンマーク館の照明計画契約を結んだポール・ヘニングセンと、Louis Poulsen & Co. との提携がスタートしました。ヘニングセンのランプは博覧会で賞を受賞しています。
- ・ 1926年、ルイスポールセンとポール・ヘニングセンは、完成したばかりの展示場施設「フォーラム・コペンハーゲン」のための照明計画の入札に成功します。このプロジェクトのために製作されたのが、今では世界的に有名になった、3枚のシェードで構成される PH ランプです。同年、PHランプは既製品として発売され、以降、世界中に輸出されました。ルイスポールセン初の、デンマーク語、英語、フランス語、ドイツ語の製品カタログが印刷されたのもこの年です。
- ・ ポール・ヘニングセンは1920年代にルイスポールセンのライティング・フィロソフィーを確立させましたが、彼の良質な光についてのアイデアがタイムレスな基礎となり、その後のルイスポールセンの歩みを支えました。機能、快適さ、雰囲気。この3つの要素が、ルイスポールセンのライティング・フィロソフィーを構成します。どの製品も、すべてのパーツが機能的役目を持ち、光自体も、まず照明としての機能を十分果たします。次に、目に不快な光を発せず、最終的には、部屋や場所の雰囲気と空間の質を高める光とデザインでなければならない、という考え方です。
- ・ 2005年、ルイスポールセンはそれまでのコペンハーゲン・スルセホルメンにあった工場を、ユトランド半島のヴァイエン(Vejen)に移します。工場従業員数は180名。
- ・ 現在ルイスポールセンでは、ヴァイエン工場とコペンハーゲン・ガメルストランドの本社、そしてストックホルム、東京、オスロ、ロサンゼルスなどの都市に設置されているショールーム、子会社で、合計420名が働いています。
- ・ 製品開発、営業、マーケティング部は、本社・ショールーム（どうぞ見学にお越しください）のあるコペンハーゲン・ガメルストランド28番地にあります。